

拳ノ川小学校

「未来を拓く」

校長 二岡 裕幸

◆はじめに

この春には4名の新入生を迎え、全校児童24名で今年度の教育活動をスタートさせました。本校は地域との結びつきが強く、低学年のイモ、中学年のドデカボチャ、高学年では若山楮を使った紙漉き体験など、生活科・総合的な学習の時間での活動に際し、地域の方にもいつも温かく見守られながら日々健やかにすくすくと育っています。



◆めざす児童像

- ① 心やさしい子
- ② ふるさとを誇れる子
- ③ 主体的に活動する子
- ④ 能力を出し切る子
- ⑤ 体をきたえる子
- ⑥ 和を大切にする子



◆学校教育目標

「未来を拓く」

- ① 確かな学力を備え、
- ② 豊かな心を持ち、
- ③ 体力に富み、
- ④ 主体的に活動する

チーム拳ノ川一丸となつて「知」「徳」「体」のバランスのとれた質の高い教育の実践を通して、保護者や地域に愛され、信頼される学校づくりをめざします。

◆地域とともに

▽地域合同運動会

5月25日(日)

今年の運動会は当初予定していた土曜日が荒天のため翌日(日曜日)に開催されました。

前日から大雨の予報が出されたため、地域・保護者の方々が校庭一面にビニールを敷くなどして対応していただきました。

運動会当日も競技や地域の伝統「そばまき踊り」に仮装して参加していただき、大盛り上がりの中に終わりました。



▽佐賀北部夏祭り

7月27日(日)

学校行事ではありませんが、佐賀北部が主催する夏祭り。これも地域みんなで拳ノ川小学校の子どもたちが大切に行っていることが表れているイベントです。

今年は雨のため屋内での開催となりましたが、それでも祭りの最後を飾る花火は大盛況でした。



▽収穫祭

11月8日(土)《予定》

毎年子どもたちが「総合的な学習の時間」などで学んだことを発表したり、収穫・製作した物を販売した

りする学習発表会を、地域の方々に招待して行います。今年度は拳ノ川小学校創立150周年となることから学校運営協議会が中心となって実行委員会を立ち上げ、150周年記念行事と合同開催する予定です。



◆おわりに

今後も保護者や地域の皆さんと手を組みチーム拳ノ川として、「命を尊び、故郷を愛し誇りに思う心。社会でたくましく生きる力。明るい未来を創造できる児童力。」の育成に向けて、取り組みを進めていきたいと考えています。

入野小学校

生きるための「実力」を
身に付けた児童の育成

校長 黒田 令子

本校は、今年度33名の新1年生を迎え、現在149名の児童が在籍しています。教職員数は20名です。

入野小学校が、児童も・教職員も(保護者も・地域も)「今日も学校に来て(行かせて)よかった、明日も学校に来たい(行かせたい)」と思える学校でありたいという思いを強く持ち学校経営を行っています。毎朝、子どもたちが登校して来てくれる姿を見守るとき、私自身とても元気をもらいます。「今日も学校に来てよかった」と思う瞬間でもあります。

本校の学校教育目標を「生きるための『実力』を身に付けた児童の育成」として4年間取り組んできています。

本校は、児童が大人になったときの姿を見据え、自らの幸福の追求と社会への貢献ができる生きるための「実力」を身に付けさせるため、「今」付けるべき資質・

能力の育成に向け、「チーム入野小」として、家庭・地域との連携のもと、一丸となつて取り組む学校をめざしています。

さらに、重点的に付けた力を今年度も次の「3つの力」として、児童とも共有し、私たち教職員は常に意識しながら教育活動を行っています。

- ①自ら考え、判断し、行動する力
- ②他者と協働(他者とコミュニケーション)することができる力
- ③見通し・計画を立てることのできる力

◆日々の授業から

今年度の校内研究主題を「考えの形成を促す指導の工夫」国語科の授業づくりを中心にして」とし、国語科で身に付けた力が他の教科や領域、実生活に結びつき児童自身の「実力」となるよう研究を進めています。

本校の授業では、単元の初めに児童とともにこの単元で付けたい力を確認し、自ら問いを持ち、児童自身が計画を立て学びを進める

ことができるよう1年生から取り組んでいます。この積み上げにより、児童は、次第に主体的に考える力を身に付けてきています。

さらに、今年度は自分の考えを持つて仲間と対話し、学び合い、自分の考えを深め、根拠をもって目的に応じた表現ができる力を育成していくことを一層意識し、児童を中心に据え、6年間を見通した授業づくり研究を行っています。

◆地域を学びの場とした生活・総合的な学習の時間

生活や総合的な学習の時間でも、地域を学びの場として児童が、自ら課題を見つけ探究的な学習を行っています。この学習の過程には、先述の「3つの力」と各教科で身に付けた力が不可欠です。

これまでも、地域の皆さんには、児童の設定した課題をもとにした情報収集や体験的な活動にたくさんご協力いただきました。また、児童が誰に伝えるかという相手意識を持つて学びを深め、伝える方法として、黒潮町内の各事業所の皆さん

に児童が作成したポスターなどを掲示していただいたりもしました。たくさんのご協力とご支援をありがとうございます。児童は、一つの課題を追究していく中で生まれた新たな課題の解決に向けさらなる見通しと計画を立てスパイラルに学んでいきます。

今年度も、各学年で「黒潮町」にこだわったテーマを持ち学びをスタートさせています。児童が自ら設定した課題の解決に向け情報を集めたり、教えていただいたりするために地域の皆さんにご連絡をさせていたのですが、何卒ご協力をよろしく願います。



◆やいふ

入野小学校では、さまざまな活動を縦割りの「仲良し班」で行っています。

日々の清掃活動はもちろんのこと、遠足などの活動もこの「仲良し班」で行動していきます。そのため、児童は、教科の学習においても他の学年に自分たちが学んだことを伝えたいというゴールイメージをもって学習したり、休み時間には、いつも下級生のことを思いやり、上級生を慕って遊ぶ児童の姿が見られます。このような温かい関係性が入野小学校の児童にずっと受け継がれ一人ひとりが豊かな学校生活を送れるよう今後も取り組んでいきたいと思っています。

